

# 作家デビューの経緯語る

## 信大4年小嶋陽太郎さん

松本市の信州大学生協同組合はこのほど、著書『気障でけっこうです』で文学新人賞を受賞した、人文学部4年の小嶋陽太郎さん(23)の講演会を信大の人文ホールで開いた。小嶋さんや小嶋さんの著書の編集担当者ら3人が出席し、学生ら約20人に本が出版されるまでの経緯などを語った。

小嶋さんは松本市出身で、松本県ヶ丘高校を卒業した。今年1月、万城目学さんなどを輩出した「ポイルドエッグズ新人賞」を史上最年少で受賞し、作家デビューした。既に2作品目の執筆に取り掛かっており、大学生活を送りつつ時間の合間に筆を進めているという。

講演は対談形式で行わ

れた。受賞作品は2作品の長編だったといい、小嶋さんは「嫌いな就職活動を避け、代わりに書いた」などと明かした。文学賞の知識もなく「作品応募時に募集先が正規の会社か(インターネットの百科事典の)ウィキペディアを利用して調べ



信州大学人文学部4年 小嶋陽太郎さん

執筆活動や学生生活、著書について語る小嶋さん

た」と率直に話すと、会場が沸いた。参加した人文学部3年の小柴佳奈恵さん(21)は「出版に関心があった。学生作家や出版関係者の話を聞くことができ参考になった」と話していた。

信大生協はこれまでも学内外の文学作家と学生らの交流の場として、不定期で講演会を開いてきた。スタッフの田村侑輝さん(28)は「作家と学生が身近に触れ合える場。今後も積極的に開催していきたい」と話していた。

(松田元樹)